

令和 7 年度 第 3 回愛媛支部評議会 議事概要

開 催 日	令和 8 年 1 月 16 日（金） 14：00～15：30
開 催 場 所	ホテルマイステイズ松山 3 階 ドウエミーラ
出 席 者	大政評議員、岡村評議員、小林評議員、竹村評議員、藤田評議員、 村岡評議員、守谷評議員（五十音順）
議 題	<p>1. 令和 8 年度 保険料率</p> <p>2. 令和 8 年度 愛媛支部事業計画（案）及び愛媛支部保険者機能強化予算（案）</p>
議 事 概 要 （主な意見等）	<p>事務局より各議題について、資料に基づき説明。 評議員からの質疑・意見等は以下のとおり。</p> <p><u>1. 令和 8 年度 保険料率</u></p> <p>（被保険者代表）</p> <p>令和 8 年度平均保険料率に関する支部評議会での意見について、愛媛支部評議会では 10%維持という意見だったと思うが、10%維持と引き下げの両論がある 19 支部の意見は、最終的にどのように整理されたのか。</p> <p>（事務局）</p> <p>支部評議会において 10%維持と引き下げの両方の意見が出た支部については、10%維持と引き下げの両方の意見があったことを支部評議会における意見として本部に報告している。</p> <p>（学識経験者）</p> <p>令和 8 年度の愛媛支部保険料率について、平均保険料率に関する議論から今回示された 9.98%に至るまでの流れについて、あらためて説明してほしい。</p> <p>（事務局）</p> <p>まず平均保険料率について昨年 10 月開催の支部評議会でご議論いただき、愛媛支部評議会として 10%を維持するという結論に至った。その後、本部運営委員会での議論を経て、協会けんぽにおける平均保険料率は 9.9%に引き下げることとなり、愛媛支部の保険料率は、この決定を踏まえて 9.98%と算定された。</p> <p>（学識経験者）</p> <p>収支見込の概要等によると、平均保険料率の引き下げにより保険料収入の減少も見込まれるものの、準備金が十分積み上がっている状況から、当面財政運営上の問題はないと考える。</p>

(事務局)

国庫補助率が 16.4%で維持されている限り、準備金残高は今後数年は積み上がっていく見通しである。ただ、今回賃金上昇率と国庫補助率の変化に基づくシミュレーションをお示ししているが、今後の保険料率と国庫補助率の動きが財政状況に大きく影響することから、引き続き注視していく必要がある。

(被保険者代表)

インセンティブの指標に影響を与える後発医薬品使用割合に関して、愛媛支部の後発医薬品の使用状況はどのような傾向であるか教えてほしい。

(事務局)

四国四県は供給不安の影響もあるためか、使用割合は全国平均を下回っている。数量ベースでは全国的にほぼ 90%に迫っていることから、今後は金額ベースでの使用割合を意識して取組を進めていく必要がある。バイオシミラーの使用促進については協会全体で取り組んでおり、医療費適正化効果も高いため、関係機関にしっかりアプローチしていきたい。

(議長)

令和 8 年度の愛媛支部保険料率について、愛媛支部評議会としては、9.98%で妥当であるという意見でよろしいか。

(評議員一同)

異議なし。

2. 令和 8 年度 愛媛支部事業計画（案）及び愛媛支部保険者機能強化予算（案）

(被保険者代表)

SNS について、本日愛媛支部の LINE 配信があった。情報の見せ方や構成等クリエイターの工夫が見られ、とてもいいコンテンツだと感じている。現在、愛媛支部で使用している SNS は LINE のみだと思うが、時代の移り変わりに応じて使用する媒体を変えていく予定はあるのか。

(事務局)

LINE については、配信コンテンツの作成等を外部委託しており、来年度以降も継続して実施する予定としている。使用する SNS については、協会けんぽ全体で運用開始したものが LINE であり、現時点でその他媒体の使用は予定していない。LINE は加入者と直接つながる広報媒体として使用しており、事業主や健康保険委員に対してはメールマガジンでの発信を行っている。なお、新たなツールとして、令和 8 年 1 月下旬に「けんぽアプリ」をリリースする予定であり、将来的には健診の予約もできるよう機能を拡張していくこととしている。加入者の皆様に登録していただきながら、より便利なツールとなるようブラッシュアップしていきたい。

(被保険者代表)

コミュニケーションロゴやタグラインは、とても良いものだと思う。協会けんぽの職員が主体となって作成したとのことだが、外部のクリエイターも入っているのか。

(事務局)

本部及び 47 支部を代表した職員によって意見を出し合って素案を練り、委託業者の助言を受けながら作り上げたものである。

(被保険者代表)

コラボヘルスについて、事業所との連携で特徴的な取組があれば教えてほしい。

(事務局)

健康づくり推進宣言事業所に対してメンタルヘルス等の講座を「健康づくり講座」として毎年提供している。今年度も実施枠いっぱいとなり、利用者からも好評であった。また、事業所と連携し、食品サンプルを用いて、対象者自身の食事を再現してもらうことで、カロリーや栄養バランスが一目でわかる食事セミナーを開催するなど、特定保健指導の実施拡大に取り組んだ。

(学識経験者)

コラボヘルスの推進に関して、生活習慣病予防の取組に健康・スポーツや心理学等を専攻している学生・大学機関と連携を図る産学連携を取り入れてみてはどうか。学生自身の健康意識の向上につながるだけでなく、協会けんぽの事業の周知や地域ネットワークの強化にもつながるといったメリットが考えられるので導入を検討してほしい。

(事務局)

事業計画の中でも、顔の見える地域ネットワークづくりということで各自治体、事業所及び大学も含めた各機関との連携を重要視している。今後、産学連携についても検討していきたい。

(学識経験者)

令和 8 年度の保険者機能強化予算について、保険料率が下がることで収入が減少する見込みとの説明があったが、この予算案を遂行しても問題ないと考えてよいのか。

(事務局)

保険者機能強化予算は、中長期的な視点で、医療費上昇を抑制することを目的として予算案を立てている。限られた予算の中ではあるが費用対効果を高めながら、引き続き取り組んでいきたい。

(被保険者代表)

将来的な医療費上昇の抑制に向けて、財源を有効に活用してほしい。

特 記 事 項	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 傍聴者 2 名 ・ 次回評議会の開催時期は未定。 	